≪歴史家ワークショップ 2020 年度活動実績≫

本事業はユニークでシームレスな支援を通じて歴史学研究者の研究能力と発信力を高め、国際的にも評価される高度な研究成果を社会に還元することを目指し、1)国際発信力強化、2)知識共有・ピアサポート、3)社会との成果共有を活動の柱としています。本事業は東京大学教育研究経費、またリサーチ・ショウケースは一般社団法人東京倶楽部の助成を受けて実施されています。

☆ 氏名の後ろのカッコ内はそれぞれの活動実施当時の所属等を示し、「・院」は大学院生です。 ☆ 活動詳細は https://historiansworkshop.org/をご参照ください。

1)国際発信力強化

リサーチ・ショウケース

リサーチ・ショウケースは、自らが取り組んでいる研究を8分間にまとめて外国語で発表し7分間で質疑応答を行う形式の、大学院生の国際的発信力を高めるためのワークショップです。発表者は事前に査読誌への投稿・査読経験者2名から原稿に対するフィードバックを得ることができ、参加者の投票により優秀発表者に賞が授与されます。

2020 年度は従来から行われてきた英語版 2 回に加えて第 1 回のフランス語版をオンライン開催し、合計 29 名の若手研究者に発表機会を与えました。フランス語版リサーチ・ショウケースに参加したスイスやフランスなど海外研究機関・研究者からは協力の申し出が相次ぎ、フランス国立科学研究所 (CNRS)と協力のもとでの定期開催を検討中です。

発表原稿に対して事前に英語でフィードバックを行う「レビューアーズ・カレッジ」にも、過去の発表者を中心にのべ20名の若手研究者が参加しました。査読者である若手研究者は英語論文の出版や査読経験を持つ教員とペアで査読を行うことで、コメントのしかただけでなく、同僚・後輩を支え合うことの大切さについても学びました。フランス語原稿の事前校閲は5名の研究者に協力いただきました。2016年度から2020年度までに大阪大学・京都大学・名古屋大学・東北大学等との共催で全国展開されてきた同プログラムは、過去13回の開催で総計101名が発表参加し、その後の国際学会での受賞やテニュア・トラック・ポジションの獲得といった成果が生まれています。

【企画・運営】黄霄龍・山本浩司(東京大学)【第 11 回】飯倉洋一(大阪大学),池田真歩(北海学園大学)【第 12 回】Orion Klautau(東北大学),Clinton Godart(東北大学),茂木謙之介(東北大学),阿部純(東北大学・院)【フランス語版】古川萌・山本浩司(東京大学),隠岐さや香(名古屋大学),稲賀繁美(国際日本文化研究センター),鈴木実香子(東京大学・院),吉川弘晃(総合研究大学院大学・院)

・第 11 回リサーチ・ショウケ

ース(2020年7月11日、発表者10名/校閲者10名/参加者30名)

司会・コメンテーター:山本嘉孝(国文学研究資料館)

ゲストコメンテーター: Timon Screech (ロンドン大学) ・第 12 回リサーチ・ショウケース (2021 年 2 月 18 日、発表者 10 名/校閲者 10 名/参加者 41 名)

司会・コメンテーター: Orion Klautau. Clinton Godart ・第1回フランス語リサーチ・ショウケース(2021年2月22日、発表者9名/校閲者5名/参加者50名)

司会・コメンテーター: 隠岐さや香(名古屋大学)

コメンテーター:稲賀繁美(国際日本文化研究センター)







<関連プログラム>

・リサーチ・ショウケース特集パネル (AAS-in-Asia) (2020 年 9 月 3 日、パネリスト 5 名/参加者 20 名)

パネリスト: Nathan Hopson(名古屋大学), 黄霄龍(東京大学), 池田真歩(北海学園大学), Steven Ivings(京都大学), 山本浩司(東京大学)

Early Career Conference

「リサーチ・ショウケース」の過去の発表者たちが、歴史学研究者が国際学術会合における研究発表と司会進行(チェア)の経験を積むことを目的に立ち上げたプログラムです。第1回は2018年9月11日に東京大学で開催され、2020年度には第2回がオンラインで開催されました。

【企画・運営】稲垣健太郎(東京大学/コペンハーゲン大学・院),北川涼太(広島大学・院),許豆任(東京大学・院),鈴木健吾(東京大学・院),山田智輝(京都大学・院)

・Virtual Early Career Conference 2 (2020 年 8 月 31 日、発表者 6 名/参加者 20 名)



フロントランナー・シリーズ:

ノンネイティブの若手研究者が直面する「英語論文執筆における壁」を認識し乗り越えることを目指し、英語論文の執筆術から異なるフォーマットの学術アウトプット(博士論文・単著・編著の一章分担当など)の書き分け方・書き換え方といった応用技術まで、具体的な体験談を聞きながら理解を深め、実践のための知恵を蓄積することを目的とするセミナーシリーズです。大学院生たちの企画・運営・ファシリテーションによって 2020 年度にスタートし、歴史分野で活躍する若手研究者を招いてオンラインで 6 回開催されました。

【企画・運営】森江建斗(京都大学・院),山田智輝(京都大学・院),大津谷馨(リエージュ大学・院),照井敬生(キングス・カレッジ・ロンドン・院)

・フロントランナー・シリーズ 1 (2020 年 5 月 29 日、参加者 30 名)

講師: Karin Ling-Fung Chau (キングス・カレッジ・ロンドン・院)

・フロントランナー・シリーズ 2 (2020年6月11日、参加者80名)

講師: 久野愛(京都大学)

・フロントランナー・シリーズ 3 (2020 年 9 月 3 日、参加者 35 名)

講師:上英明(東京大学)

・フロントランナー・シリーズ 4 (2020年9月17日、参加者30名)

講師:佐藤尚平(早稲田大学)

・フロントランナー・シリーズ 5 (2020 年 10 月 15 日、参加者 30 名)

講師:大澤広晃(法政大学)

・フロントランナー・シリーズ 6 (2021 年 1 月 28 日、参加者 33 名)

講師:神田惟(東京大学)

英語で書かれた参加者の原稿を対象として、「読みやすさ」とその背景にある「ロジック」を読み解き、校閲スキルを磨くことで、質の高い推敲を自力で始められるようにすることを目的とするプログラムです。本ワークショップで推敲を受けた原稿はすでに海外の雑誌に受理され、国際学会にて発表されています。各地で歴史的アプローチを用いて研究している大学院生・研究者に開かれたトレーニングの機会を提供することで、規模の比較的小さい研究領域でも国際化に必要な切磋琢磨が可能となっています。

今年度は英文校閲ワークショップが合計 11 回開催され、その中で行われた投稿準備中論文の原稿検討会を経て英語論文 2 本が国際的ジャーナルに投稿され、うち 1 本が既に受理されました。

上記論文を含め、2020年度にはこれまでの受講者論文3本のジャーナル掲載が決定しました。

- Past & Present (日本人研究者として 40 年ぶりに受理)
- Japanese Journal of Religious Studies Vol. 48/1
- The European Journal of Japanese Philosophy また、同ワークショップの内容が評価され、書籍化が決定しました。

【企画・運営】山本浩司(東京大学),安平弦司(日本学術振興会/ユトレヒト大学)

・第3期英文校閲ワークショップ(2020年4月9日~8月27日、各回参加者16~35名、のべ262名)

日本史史料英訳ワークショップ

日本史研究者の国際発信力向上と海外研究者との双方向的交流に資する取り組みのひとつとして、2020年度に全5回の「日本史史料英訳ワークショップ」を開催しました。日本史史料の英訳をベースに日本史研究の課題を検討する国際研究会で、史料の解釈を英語で表現する過程を日本と英語圏の日本史研究者が共有し、日本国内外の既存の日本史史料英訳プロジェクトやデータベースを知り、日本史史料の英訳がどのように関連研究史の問題に繋がっていくかを模索する機会となりました。

【企画・運営】黄霄龍(東京大学)

・第1回日本史史料英訳ワークショップ「中世 醍醐寺文書」(2020年6月2日、発表者3名/参加者28名)

講師:Paula R. Curtis(イェール大学)

史料検討:橘悠太(奈良文化財研究所),黄霄龍

・第2回日本史史料英訳ワークショップ「中世 御成敗式目」

(2020年6月2日、発表者3名/参加者27名)

講師: Paula R. Curtis (イェール大学),

史料検討:佐藤雄基(立教大学),木下竜馬(東京大学史料編纂

所)



・第3回日本史史料英訳ワークショップ「金沢文庫文書|

(2020年12月5日、発表者4名/参加者28名)

講師:Paula R. Curtis(イェール大学)

史料検討:貫井裕恵・三輪眞嗣 (神奈川県立金沢文庫)

コメンテーター:赤江雄一(慶 應義塾大学) ・第4回日本史史料英訳ワーク ショップ「近代史料」(2021 年1月9日、発表者3名/参 加者27名)

講師:Amin Ghadimi(宇都宮 大学)

史料検討:池田真歩(北海学園 大学),押切貴(西インド諸島 大学モナ校)

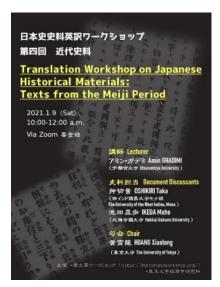
・第5回日本史史料英訳ワークショップ「琉球外国関係文書」

(2021年3月11日、発表者3名/参加者31名)

スピーカー: Travis Seifman (東京大学史料編纂所),後藤 敦史(京都橘大学)

コメンテーター:松方冬子(東京大学史料編纂所)







国際シンポジウム

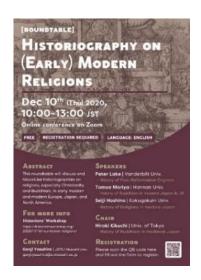
当初 2020 年 3 月の開催を予定しながら新型コロナウィルス感染症の流行により延期された国際シンポジウムを 2020 年 12 月に開催しました。ヴァンダービルト大学教授で英国学士院会員の Peter Lake 氏を含む近世・近代の宗教を扱う歴史研究における第一人者 3 名が登壇し、西洋史・日本史、キリスト教史・仏教史といった専門の垣根を越えて、近世・近代の宗教を扱う歴史学の営みを歴史的に把握し、研究の最前線を探る機会となりました。

【企画・運営】安平弦司(日本学術振興会/ユトレヒト大学)

・Roundtable: Historiography on (Early) Modern Religions(2020 年 12 月 12 日、発表者 3 名/参加者 36 名)

司会:菊地大樹(東京大学)

講師:Peter Lake(ヴァンダービルト大学),守屋友江(阪南大学),星野靖二(國學院大學)



2)知識共有・ピアサポート

成果発表のノウハウを共有するための各種「スキル・ワークショップ」を、2020年度も継続開催しました。

研究の楽しさや研究にまつわる悩みを気軽に共有し助け合える場を作ろうと、国内外の博士課程に在籍する6名の大学院生が中心となって、2020年度より企画・運営を行なっています。孤独に研究する大学院生・研究者が分野を横断して集まり、アカデミア外の人たちとも人間的なつながりを構築することを目的とする本シリーズは、様々なゲストを招いてこれまでに4回開催されました。

【企画・運営】赤崎眞耶(ポール・ヴァレリー(モンペリエ第三)大学・院),市川佳世子(日本学術振興会/フリブール大学),大津谷馨(リエージュ大学・院),纓田宗紀(アーヘン工科大学・院),北川涼太(広島大学・院),篠田知暁(東京外国語大学),藤田風花(京都大学・院),槙野翔(ダブリン大学・院)

Coffee Time Series 1 「博士課程におけるチャレンジ」(2020年7月10日、参加者29名)

ファシリテーター:槙野翔

ゲストスピーカー:安平弦司(日本学術振興会/

ユトレヒト大学)



・Coffee Time Series 2「育 児と研究」(2020年9月11 日、参加者37名)

ファシリテーター:大津谷馨 ゲストスピーカー:熊倉和歌子

(東京外国語大学)

・Coffee Time Series 3「ア カデミア外の仕事と研究」 (2020年12月11日、参加者 27名)

ファシリテーター:赤崎眞耶

ゲストスピーカー:中村優子

(Google)

• Coffee Time Series 4「研究にまつわる悩みの分かち合い」(2021年2月26日、参加者17名)

ファシリテーター:北川涼太







新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの大学院生・研究者が、従来通りに研究を遂行することが物理的・精神的に難しい状況下において、研究上の悩みを共有できる場、セルフケアやピアサポートを通じたストレスコーピングの方法についてのワークショップ開催を求める声を受け、オンラインセミナー「Self-Care and Peer Support Workshop」を開催しました。グリーフケアの専門家を講師として迎え、レクチャーとグループワークという2部構成で開催した後、レクチャー部分の動画を一般公開しました。

【企画·運営】藤田風花(京都大学·院), 紺野奈央(東京大学) ·Self Care and Peer Support Workshop(2020 年 6 月 25 日、 参加者 55 名)

講師:尾角光美・水口陽子(一般社団法人リヴオン)

進行:藤田風花,紺野奈央,市川佳世子(フリブール大学),森江健斗(京都大学・院),安平弦司(ユトレヒト大学),吉川弘晃

(総合研究大学院大学・院)



スライド道場

学術発表を補助する視覚資料(スライド)は、発表の質を向上させる要素として重要な役割を担っています。よりわかりやすく説得的に内容を伝えられるスライドの作成について話しあい、そのポイントやテクニックを可視化かつ共有する場として本ワークショップが企画・開催され、好評を博しました。

【企画・運営】古川萌(東京大学)

・「スライド道場」**1** (2020年5月11日、発表者2名/参加者21名)

講師:今西美音(竹中技術研究所),古川萌

・「スライド道場」**2** (2020年5月18日、発表者2名/参加者17名)

講師:今西美音(竹中技術研究所),古川萌



特別ワークショップ

大阪大学で開催された第70回日本西洋史学会で、下記の特別ワークショップを実施しました。

【企画・運営】高橋亮介(東京都立大学),正木慶介(愛知県立大学),春日あゆか(広島大学)

・特別ワークショップ「仕事の効率化とワークライフバランス」(2020 年 12 月 12 日、第 70 回西洋史学会と共催、参加者 92 名)

ファシリテーター:春日あゆか

コメンテーター:柳原伸洋(東京女子大学),金澤周作(京都大学)

Tokyo Digital History

2017 年度より「歴史研究者のための Python 勉強会」や「歴史研究者のための TEI 入門セミナー」などを開催してきた学際コミュニティ Tokyo Digital History と共催し、2020 年度には以下の研究会を行いました。

【企画·運営】小風尚樹(千葉大学)

• **Tokyo Digital History 第 1 回研究会** (2021 年 1 月 29 日、参加者 20 名)



3) 社会との成果共有

パブリック・エンゲージメント

一般参加者に「研究者の問題関心」を知ってもらうとともに最新の歴史研究の知見を社会に還元するため、参加型ワークショップや連続講座などを企画・開催しています。英米圏のアカデミアで重視されつつある public engagement のボトムアップの取り組みとして、2020 年度には 4 回開催しました。2019 年度に第 1 回を開催した「史料読解ワークショップ」では、今回は参加者が「議事録の読み

方」や「議事録との向き合い方」を考え、過去の史料を読み解く楽しさと難しさに触れる機会を提供することを目的に、専門家によるレクチャーの後、事前配付資料を用いて参加者同士が議論するグループワークを行いました。また、連続講座「伝記の読み方を考える」は Youtube による配信を行ったことにより多数の録画視聴者を獲得し、講演録が書籍化される予定です。

【企画・運営】

【史料読解ワークショップ】峯沙智也(東京大学・院)/【連続講座】古川萌(東京大学)

・史料読解ワークショップ 2 「議事録の内と外を読む」(2020 年 10 月 2 日、参加者 34 名)

講師:山本浩司(東京大学),飯田洋介(岡山大学)



・連続講座「伝記の読み方を考える」1 「ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン」(2020年11月14日、動画視聴者約1200名)

講師:かげはら史帆(ライタ ー)

 ・連続講座「伝記の読み方を考 える」2 「円山応挙」(2020年 12月19日、動画視聴者約460名)

講師:水谷亜希(京都国立博物館)



・連続講座「伝記の読み方を考える」3 「アーネスト・ヘミングウェイ」(2021年1月23日、動画視聴者約230名) 講師:フェアバンクス香織(文京学院大学)

